

# 1月25日 第9回「ごみと水を考える集い」開催

名古屋市港区 藤前会館

官・民合わせ34団体66名参加

ごみの生まれのない社会めざす7項目アピール採択



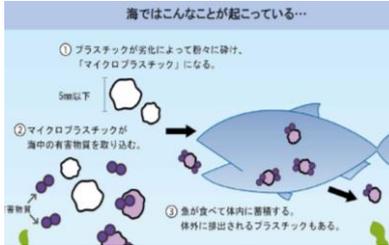
<挨拶>

<記念講演>



藤前干瀧グリーン大作戦実行委員会坂野一博実行委員長が呼びかけ5団体を代表して挨拶。

大八木准教授は、マイクロプラスチックが海中で有害物質を取込み、それを魚が食べて体内に蓄積することによる環境や人の健康への懸念を話されたうえで、三重県の高松干瀧など四つの海岸のマイクロプラスチック調査では「徐放性肥料」が多かったことや、三滝川でのマイクロプラスチックの流下調査結果を報告して頂きました。



<特別報告・移植地調査>

<特別報告・苗床>



特別報告の「2020年のヨシ原調査報告」は、中部大学上野研究室4年生の花村美砂さん(上の写真左)と横井俊介さん(上の写真右)が、移植したヨシの生育状況の測定・調査・分析結果と移植地の土壌、水などの環境調査の結果を手分けして発表してくれました。

中島佳郎さんの「ヨシ苗床」生育報告では、生育に必要な「硝酸」が摂れるように湧き水の池から揚げたことが報告されました。

<来賓:お忙しい中、駆けつけて激励頂きました。>



河村たかし  
名古屋市長



大村愛知県知事代理:岡島充  
典建設部河川課主幹



中部地方整備局庄内川河川事務所西田将人事務所長



中部地方環境事務所:金井信宏資源循環課長



名古屋市環境局環境企画課寺西慶徳主幹



司会は今年もMr. 源流・村上さん



7項目アピール提案は守る会の神さん



「集い」のまとめが保存会の山本さん



甘酒交流会・乾杯は、千葉賢教授



はNPOサポーターの溝口さん

## 甘酒交流会

交流会は、四日市大学の千葉賢教授(22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会副委員長)の挨拶と乾杯で開会。藤前干瀧守る会の佐野さん、坂野さん調理の甘酒は、温かく身体に優しく頂きました。参加者は名刺交換・意見交換し5時前にNPO法人土岐川・庄内川サポーターセンター溝口敏明さんの挨拶で閉会しました。



みなと総合研究財団(東京)の森谷さん



最年少参加者小6の小早川さん



名古屋港管理組合港営部の鈴木さん

## 四つの分散・交流会でワークショップ

記念講演、特別報告に続き、参加者全員が四つに分かれて交流会です。四つの分散・交流会は、座長を中部大学ボランティアNPOセンターの4人の学生が担当し、結果を「まとめの全体会」で報告しました。副座長には呼びかけ団体の役員、助言者に千葉賢教授、大八木麻希准教授等をお願いしワークショップで行いました。

<第1分散・交流会>

<第2分散・交流会>



<第3分散・交流会>



<第4分散・交流会>

第9回ごみと水を考える集いよびかけ5団体 ★土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会★藤前干瀧グリーン大作戦実行委員会★四日市ウミガメ保存会★22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会★NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター

本取組は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

# 分散・交流会結果は座長の4名（中部大学ボランティアNPOセンター）が発表

第1:大石美奈子さん

第2:丹羽晃規さん

第3:久保田朱里さん

第4:五十嵐美佳さん



## 第9回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、名古屋市港区の藤前会館に山、川、里、海で活動する市民団体・行政等34団体66人が参加して、第9回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、四日市大学環境情報学部の大八木麻希准教授の「伊勢湾のマイクロプラスチック」との記念講演で、伊勢湾における漂着ごみとマイクロプラスチックの実態と問題点・課題を、昨年の千葉賢教授の講演に続いて2年連続して勉強しました。「2019年度藤前干潟のヨシ原環境調査報告」では、ヨシ原復元プロジェクトが確かな「実践」段階に入ったことを確認しました。

四つの交流会での各団体の活動報告では、山・川・里・海で自然環境を保全する活動が積極的に旺盛に展開されていることが報告されました。藤前干潟クリーン大作戦実行委員会からは、一昨年秋の二つの台風による「高潮」により湧き上がった古いペットボトル等を、河川管理者・庄内川河川事務所との協働の取組で「一掃」する画期的な局面を築いたことが報告されました。

話し合いでは、マイクロプラスチックが、伊勢湾とそこに繋がる河川でも顕在化している実態を認識したうえで、一市民・市民団体として何ができるのか議論を深めました。「ペットボトル等の化石由来漂着ごみ」を拾い続けること、新たに漂着ごみの生まれにくい啓発活動を一層推進すること、石油由来製品の製造・利用企業や国・地方の行政機関への問題提起などの必要性、教育の大切さ等、さまざまな意見が出されました。自然環境の保全と健康を守る上から「マイクロプラスチック」禍を拡大しないことが大切なことを確認しました。

第1回から第9回までの「集い」を通して、「ごみと水を考える」ネットワークづくりに賛同頂いた団体は68団体になりました。伊勢湾に繋がる愛知、岐阜、三重の各地では22世紀奈佐の浜プロジェクトの活動もあり、県境を越えて旺盛な清掃活動が展開されています。マイクロプラスチック問題は、この取組にも新たな課題を投げかけています。

本日の参加者は、改めて自らのフィールドでの取組の大切さと、伊勢湾流域圏一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。

ごみを捨てるのは人間だけです。人間だけがごみを造り、ごみを出して自然環境を痛めつけています。人間の責任で「ごみが生まれにくい社会創り」の実現をめざしましょう。

私たちは、呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれにくい社会を創りましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりを作りましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境を創りましょう。

2020年1月25日

第9回藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

### <アピールを採択した第9回ごみと水を考える会に参加した市民団体等>

四日市大学、中部大学応用生物学部上野研究室、中部大学ボランティア・NPOセンター、NPO法人香流川をきれいにする会、NPO法人藤前干潟を守る会、NPO法人堀川まちネット、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、一般財団法人みなと総合研究財団、土岐川・庄内川流域ネットワーク、新川をよみがえらせる会、土岐川・庄内川源の森委員会、松並木つくり隊、矢田・庄内川をきれいにする会、名古屋市野鳥観察館、港栄第一クラブ、四日市ウミガメ保存会、IPG(産業廃棄物専門家集団)、NPO法人モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会、志段味の自然と歴史に親しむ会、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、森・川・里の恵み研究所、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、萌木舎、鯉城堀川と生活を考える会、黒川ドリーム会、中部の環境を考える会

### <第9回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関>

河村たかし名古屋市長、国土交通省庄内川河川事務所、環境省中部地方環境事務所、環境省名古屋自然保護官事務所、愛知県建設部河川課、三重県環境生活部大気・水環境課水環境班、名古屋市環境局環境企画部、名古屋市緑政土木局河川計画課、名古屋港管理組合港営部

第9回ごみと水を考える集いよびかけ5団体 ★土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会★藤前干潟クリーン大作戦実行委員会★四日市ウミガメ保存会★22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会★NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター